

西諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年9月 西諸県農林振興局
（西諸県農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の主な動き (P2)
 - (1) 第13回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会が開催
 - (2) 9月期子牛郡品評会が開催
 - (3) 普通期水稻成熟期調査の実施
- II 主な普及指導活動等の取組み
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P2～5)
 - (耕畜連携が育むしなやかで強い畜産産地づくり)
 - (1) セリ前講習会の実施
(加工・業務用野菜を核とした力強い畑作産地づくり)
 - (2) ほうれんそう栽培講習会を開催
 - (3) ブロッコリー畑かん実証ほ中間調査の実施
(先進技術の導入等による高品質・高収益な園芸産地づくり)
 - (4) 県外就農相談フェアに参加
 - (5) JAこばやし促成きゅうり栽培講習会が開催
 - (6) JAこばやしマンゴー部会定期総会が開催
 - (7) 小林市果樹農業振興推進対策協議会・JAみやざきこばやし梨ぶどう生産部会 梨品評会が開催
(気候変動に対応した持続性の高い水田農業の確立)
 - (8) 特Aほ場巡回・ひなた舞現地検討会の実施
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P5～7)
 - (1) 令和8年度西諸県農業者セミナー（レベルアップセミナー）を開講
 - (2) 就農相談会を実施
 - (3) 経営開始資金受給者の就農状況を確認
 - (4) 西諸県地区茶業振興協議会求評会が開催
 - (5) JAこばやし促成ピーマン栽培講習会が開催
 - (6) メロンにおける根域制限栽培の実証
 - (7) 高原町花卉部会の定例会が開催
 - (8) 西諸県地区花き技術員会第5回例会が開催
 - (9) 第4回西諸県地区果樹技術員会が開催

I 管内農業・農村の主な動き

(1) 第13回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会が開催

26日、都城地域家畜市場において、第13回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会が開催され、西諸県地域からは第1区に3頭1セット、第2区に2頭1セット、第3区に3頭、第4区に3頭が出品されました。

審査の結果、第2区高等登録群で脇屋敷まさ子さん、誠さん親子所有の「ももこ2」号・「ももこ2の1」号が優等賞首席とグランドチャンピオンを受賞しました。また、第1区繁殖雌牛群で鬼塚政治さん所有の「ななせ」号、株式会社濱崎畜産さん所有の「しのぶちゃん」号、大濱一文さん所有の「ふたば1」号が、優等賞首席を受賞しました。さらに、第3区と第4区でも全員が優等賞を受賞するなど、当地域が優秀な成績を修めた共進会となりました。



【審査の様子】

(2) 9月期子牛郡品評会が開催

10日に、小林地域家畜市場において、JAみやざき西諸県家畜市場運営部主催による令和8年9月期子牛郡品評会が開催されました。

15日から17日に開催される9月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た32頭が出品され、審査の結果、優等賞に5頭、壺等賞に17頭、式等賞に10頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の「みちふく」号（父：福晴茂）、2席は小林市野尻町の「あさみ」号（父：美津秋）、3席は高原町の「とうえるぶ」号（父：美津白鵬）が受賞されました。

受賞牛は、発育良好、体積豊か、前中後軀のつりあいに優れ、雌牛らしい品位に秀でていたとの講評でした。



【優等賞首席「みちふく」号】

(3) 普通期水稻成熟期調査の実施

14日に、関係機関からなる西諸県地区普通作物技術員会で、管内の普通期水稻の生育調査（稈長、穂長、穂数、病虫害の発生状況等）を実施しました。

調査の結果、稈長はやや短く、穂長・穂数はほぼ平年並みとなり、概ね順調に生育していることが確認されました。

また、一部のほ場で紋枯病の上位進展やカメムシ類の被害が確認されたものの、ウンカ類の被害は少なく、全体的に病虫害の発生は少ない傾向となっています。

今回は11月上旬に技術員会で試験ほ場の収量調査を行う予定です。

II 主な普及指導活動等の取組み

1 地域プランに基づく普及活動

（耕畜連携が育むしなやかで強い畜産産地づくり）

(1) セリ前講習会の実施

15日から17日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に講習会を行いました。普及センターから「子牛の管理①～母牛の管理～」をテーマに講習会を行い、延べ140名程の参加がありました。講習会後には、さっそく参加者から、自給飼料の栄養価を知りたいと飼料分析の依頼が複数寄せられました。

今後も継続して、基本的技術の重要性について発信を行っていきます。



【講習会を聞く農業者】

(加工・業務用野菜を核とした力強い畑作産地づくり)

(2) ほうれんそう栽培講習会を開催

7日、加工用ほうれんそうの品質と収量向上のため、JAみやざきこばやし地区西支店、小林集送センターの2ヶ所で講習会が開催され、あわせて24名の生産者が参加しました。

普及センターから栽培暦に沿った基礎知識を説明し、高温や湛水条件での発芽状況、黄化症状の発生条件について解説をしました。JAからは、9月25日より始まる栽培管理に向けた注意点(雑草・病害虫対策、異物混入、農薬の適正使用等)について説明が行われました。

生産者からは、「播種時期の高温、雨天が発芽に影響することを理解しました。」という意見をいただきました。



【栽培暦の説明】

(3) ブロッコリー畑かん実証ほ中間調査の実施

9日、千歳環野地区のブロッコリーほ場において、8月3日の猛暑期播種における、畑かん水が生育に与える効果の中間調査を実施しました。

今回の調査では、かん水区は無処理区と比較して、株の高さおよび横幅で10%程度の旺盛な生育状況が確認できました。また、今後は10月上旬の収穫に向けての発蕾から収穫時期の状況や、収量比較もあわせた経営的效果を確認していくこととしています。

生産者からは、「生育の早進や収量の増加による販売価格への影響に期待したい」との声が聞かれました。



【株の高さ、横幅の調査】

(先進技術の導入等による高品質・高収益な園芸産地づくり)

(4) 県外就農相談フェアに参加

23日、東京国際フォーラムにおいて開催された新農業人フェアにおいて、JAみやざきこばやしマンゴー部会が出展しました。普及センターも関係機関とともに参加し、案内や説明等のサポートを行いました。

当日は、計14組の方がブースへ来場され、研修生受入の概要について説明したところ、高い関心を持たれた方も複数組いらっしゃいました。

今回、相談を行った方に対しては、1月にマンゴー部会が行う予定のお試し就農への参加を呼びかけ、実際に現場の作業や雰囲気を経験していただくことで、より具体的な就農のイメージを持っていただく予定です。



【新農業人フェアの会場】

(5) JAこばやし促成きゅうり栽培講習会が開催

17日、小林集送センターにおいて「令和9年産 促成きゅうり栽培講習会」が開催され、部会員ら20名が参加しました。

講習会では、9月末からの定植開始を控え、普及センターから、前作の反省を踏まえた、「流れ果と摘果の区別」による着果負担の適正化や、ほ場周辺の除草等、基本対策の重要性を説明しました。また、チャノホコリダニ対策として天敵資材（ククメリスカブリダニ）をローテーションに組み込む防除体系を紹介しました。

種苗メーカーからは、高温下での芯焼け対策としてバイオスティミュラント資材（ヒートインパクト）の有効性や定植直後のアザミウマ対策の重要性について説明がありました。

今作も良いきゅうりを生産できるよう技術支援を行っています。



【講習会の様子】

(6) JAこばやしマンゴー部会定期総会が開催

10日、「JAみやざきこばやしマンゴー部会出荷反省会および定期総会」がゆーぱるのじりで開催され、関係者約70名が出席しました。本年産の販売実績は、数量で前年比約74%となり、6月以降の後期型マンゴーの出荷減が大きく響く結果となりました。一方で単価は、品不足感から昨年と同様の価格でした。

普及センターから、生産者の関心が高かった「花芽不調」に関連する根量調査結果およびアザミウマ類対策について説明を行いました。説明後、複数の生産者から調査の詳細について質問が寄せられたことから、生育不良への危機感が高まっていることを再認識しました。

今後も品質向上と産地維持・発展を目指して引き続き支援を行います。



【総会の様子】

(7) 小林市果樹農業振興推進対策協議会・JAみやざきこばやし梨ぶどう生産部会 梨品評会が開催

17日、西諸県農業改良普及センターにおいて、小林市果樹農業振興推進対策協議会（以下、果新協）・JAみやざきこばやし梨ぶどう生産部会（以下、JA部会）の梨品評会が同日開催されました。

主要品種である「新興」「新高」計15点が出品され、審査結果は、果振協の新興の部で（優等）永迫梨葡萄園、（1等）小原修一氏、新高の部は（優等）永迫梨葡萄園、種子田フルーツ、JA部会の新興の部で（優等）堀隆志氏、（1等）永迫梨葡萄園、新高の部は（優等）種子田フルーツ、（1等）永迫梨葡萄園となりました。

本年は果実肥大期にあたる7～8月の少雨による肥大不足から、出品基準（例：新興11玉/5kg以上）に達する果実が少なく、出品数が伸び悩む結果となりました。

今後も引き続き、関係機関と連携して産地を支援していきます。



【審査の様子】

(気候変動に対応した持続性の高い水田農業の確立)

(8) 特Aほ場巡回・ひなた舞現地検討会の実施

18日に、えびの市稲作振興協議会主催により、市内の生産者は場において、特Aほ場巡回、並びに「ひなた舞」の現地検討を行いました。

生産者や関係者とともに、ほ場の管理状況や収穫時期の見通しについて確認し、普及センターからは、出穂期以降の積算気温やほ場毎の生育状況を基に、適期収穫に向けた啓発を行いました。

生産者は、改めてヒノヒカリの収穫適期が早まっていることを自覚したようで、刈り遅れ防止を意識づける良い機会となりました。



【適期収穫の指導状況】

2 地域課題一覧に関する普及活動

(1) 令和8年度西諸県農業者セミナー（レベルアップセミナー）を開講

3日と10日に経営管理能力の更なる向上を目指とした研修会を開催しました。

3日は、株式会社農テラスの山下氏を講師に招き、「新時代を生き抜く農業経営の戦略的思考」と題して講演していただきました。熱のこもった語りと経験を踏まえた説得力のある講演で、受講者からは熱心に質問が出されました。

また、10日には株式会社トヨタ車体研究所の鶴菌氏を講師に招き、「世界のトヨタに学ぶ！業務改善」と題し、講演をしていただきました。

異業種の内容ということもあり、受講者は熱心に聞き入っている様子でした。また、質問に対して企業的な価値観やコスト管理の考え方など非常に有意義な回答をいただきました。

今後は講義形式にとどまらず、パネルディスカッション形式などを取り入れた構成にするなど、効果的な研修を行っていきます。



【講演を熱心に聞く受講生】

(2) 就農相談会を実施

肉用牛繁殖経営で就農を希望する3名（小林市3名）の就農相談会を開催しました。

3名の相談者については、経営計画がある程度出来上がっている方から、経営計画を作成しはじめた方、これから就農をどのような形で進めていくかといった検討段階の方までさまざまであるため、今後も引き続き、各相談段階に応じた対応を関係機関と連携しながら進めていく予定です。

※就農相談対応 3名3回（内訳：小林市：肉用牛繁殖3名）

(3) 経営開始資金受給者の就農状況を確認

1日にえびの市で、15日には高原町で経営開始資金等を受給する新規就農者に対して、就農状況の確認を行う面談を行いました。

面談では、前年度までの実績データを用いて認定計画に対しての生産量や売上高の進捗の確認を行い、現在把握している経営課題や対応策の確認を行いました。

計画の進捗に合わせて、今後、関係機関と連携し、認定計画達成に向けて重点的なフォローアップを検討していく予定です。

（内訳 えびの市：水稻1名、高原町：マンゴー1名）



【就農状況の現地でのヒアリング】

(4) 西諸県地区茶業振興協議会求評会が開催

24日、普及センターにおいて西諸県地区茶業振興協議会主催の荒茶求評会が開催されました。

有機栽培を含めた14件の出品があり、見本茶の審査に加えて、成分分析結果、土壌分析結果も見合わせながら、茶商や経済連直販、専門技術センターと生産者の間で活発な意見交換が行われました。

生産者からも、「施肥などの生産技術を見直す良い機会となった」と評判であったことから、普及センターでは、今後も引き続き高品質茶生産に向けた支援を実施する予定です。



【審査の様子】

(5) JAこばやし促成ピーマン栽培講習会が開催

3日にJAこばやし三ヶ野山出張所において「促成ピーマン栽培講習会」が開催され、部会員30名が参加しました。

講習会では、定植初期における管理の重要性や、病害虫防除について説明を行いました。近年、特に発生が確認されているチュウゴクアミガサハゴロモの対策や、チャノホコリダニ対策としての天敵利用について説明しました。また、県内で多発している農薬の不適正使用による出荷物回収事例がJAから共有され、法令遵守の徹底が強く呼びかけられました。

今作も良いピーマンを生産できるよう、技術支援を行っていきます。



【部会長あいさつ】

(6) メロンにおける根域制限栽培の実証

30日に小林市野尻のメロンほ場において、「根域制限栽培」の導入に向けた防根透水シートの埋設作業を実施しました。本実証は、産地の高齢化や土壌病害リスクへの対策として、普及センター、JAこばやし、振興局が連携して取り組むものです。

当日は、メロンの根域制限栽培を学習に取り入れている宮崎農業高校の井上教諭による技術指導のもと、シート埋設機を用いた効率的な手順を確認しながら、作業を行いました。

今後は10月末に定植を行う予定です。



【遮根シート埋設の様子】

(7) 高原町花卉部会の定例会が開催

24日、高原町後川内地区において「高原町花卉部会定例会」および「ほ場巡回」が開催され、部会員夫婦ら計6名が参加しました。

巡回の結果、スプレーギクの生育概況は概ね良好であるものの、一部で花首の徒長や下位葉の枯れが確認されたため、今後の適切な肥培管理と病害虫防除について指導を行いました。

定例会では、秋彼岸の市場情勢として全国的な秀品不足や需要品種の多様化（色物へのシフト）について情報を共有するとともに、朝晩の冷え込みによる「さび病」への警戒と台風対策を呼びかけました。

また、次期作に向けた土壌診断・土壌消毒・残さ分解の重要性を説明しました。

(8) 西諸県地区花き技術員会第5回例会が開催

29日、普及センターおよび現地ほ場において「西諸県地区花き技術員会 第5回定例会」を開催しました。会議では、秋ギクの出荷開始（10月10日予定）やラナンキュラスの定植状況など、管内主要品目の生育状況等を共有しました。

また、秋ギクへのMOX資材施用効果の検証や、ベビーハンズへの粒剤施用試験を次年度計画に盛り込むことを決定しました。

室内検討が終了後、現地視察も行いました。プリンセチアの分散出荷により収益性を高めている事例や、花き栽培の労働ピークと重ならない、杉苗生産を導入した複合経営の実態を確認しました。

10月の定例会では先進地視察（中部管内のラナンキュラス育苗）を行う予定にしています。

(9) 第4回西諸県地区果樹技術員会が開催

14日、西諸県農業改良普及センターにおいて「第4回西諸県地区果樹技術員会」を開催しました。

マンゴーの花芽不調については、調査の結果、不調区の根量が少ないことが判明したため、今後は土壌の管理状況を聞き取ることとなりました。

ぶどうについては、産地ビジョンの進め方の協議と、振興局からJAこばやしが主導しているぶどう園整備プロジェクトについて説明がありました。

くりについては着花・着実結果の報告があり、来年から調査方法を変更することとなりました。また果樹共進会については、来年度に開催される全国クリ研究大会を見据えた推薦者の選定を行いました。

技術員会終了後、梨園地でバイオスティミュラント資材（ヒートプロテクト）試験の調査を行い、果実の分析も行いました。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【BS資材の効果確認】